



# 寺ネット・サンガ通信 第15号

寺ネット・サンガ事務局 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-2-14 日本橋KNビル4階  
Tel 03-5201-3976・Fax 03-5201-3712・メール info@teranetsamgha.com

## お寺の役割

寺ネット・サンガ代表 吉田尚英



昨今、散骨・樹木葬・手元供養・永代供養墓など供養が多様化し、葬儀の簡素化が急速に進んでいます。その原因として考えられるのは、信仰が「家」から「個人」のものへと変化していく中で、世間体や親族の小言より、膨大に垂れ流されるお手軽情報に飛びつく日本人の宗教観の脆弱さがあるのではないかと感じます。

終活ブームに踊らされてエンディングノートを手に入れても書き込む人はわずか数%程度、自分が亡きあとの不安を取り除き、遺された人に迷惑をかけたくないという気持ちはわかりますが、見方によっては、外注先を探して、誰かに自分の後始末を依頼しているような信仰抜き終活にはどうしてもお金のにおいが付きまとう気がします。

お寺とのつきあいが無い人たちも、いざ身内が亡くなり葬儀となるとお坊さんにお経をあげてほしいと思うものです。僧侶派遣業が栄えているのは、必要なときにだけ僧侶とつながることができる安易さ、お寺と「長いつきあい」不要、安価な供養を求める「顧客」と、安定した収入を求める「僧侶」のニーズが一致したことにあるのでしょう。

僧侶の世俗化や世襲化が世間の目にさらされるにつれ、寺は特別な存在でなくなり、仏教が守るべき存在でなくなったと思われても致し方がないと言わざるを得ません。

そのような風潮の中で葬儀費用・布施の低額化は、寺院・業界の収益減に直結しています。このままいくと数十年後には、日本の寺院の多くが経営に行き詰まり消滅するといわれています。寺院が無くなれば宗教に価値を見出さない人々が増え、宗教なき社会の歪みは道德の崩壊・家族の崩壊につながり、人類は滅亡に向かって加速していくことでしょう。

お寺は、毎朝のおつとめや週末の法事、年中行事や記念事業などさまざまな非日常の祈りが繰り返される中で、信仰が受け継がれていく場所です。そこでは生者と死者の幸せを願う祈願と回向が何百年も続けられ、それは過去の記録を未来につなぐ役割も担っています。

お葬式で引導を渡すことができるのも日常のおつきあいの延長です。信心が成仏の肝心であることを故人に伝え、仏さまに故人の来世を託すのは日常のおつきあいの延長です。

そのような目に見えない祈りの世界を信じ切るために、僧侶には常に修行に励んでいます。モノ（建物・宝物など）やコト（行事・習慣など）の文化の継続もお寺の大きな役割です。畳・正座、和食などの日常生活習慣の継承。それは西洋化の波に流されつつありますが…

僧侶はそれらのことを行いながら、さらに社会に出て世俗に交わらなければなりません。

「お寺や坊さんが世の中に役に立っているように思えない」「生産性のない僧侶に布施を払うのは無駄だ」という声も聞こえてきますが、目には見えないお寺の役割を知っていただけるよう「寺ネット・サンガ」は活動を続けています。

よりよい未来のために応援をお願い申し上げます。

合 掌

7月26日(火)

「供養」シリーズ最終回



石材店の立場で考える「供養」 (有)篠田石材店 代表取締役 篠田雅央

篠田石材店ではお客様の希望や想いを伺い、その人らしい特別なデザインの墓石の設計施工を行っています。その人の想いを墓石に彫ることは『供養』になるのではないかと思います。石材店にできる供養とは、「お墓を作ること」です。お墓にご遺骨があることは、故人がそこに存在しているという遺族の癒しとなり、故人とのつながり確かめる大切な場になると思うのです。お墓参りをする時には、そこに故人がいるかのように墓石に向かって話かける行為を自然にしています。そんな日本人の宗教観を大切にしていきたいと思います。

## 坊コン談義「あなたはなぜお墓参りをするのですか？」

「お墓参りは自分の家系を考えるきっかけになる」「お墓は長男が守るというイメージがあり、将来の墓守が心配になる」「お墓は自分の生きた証として何百年も残っていく」「墓参りのために里帰りをするアイデンティティを確認する機会になる」「お墓参りに拠り所を求めるようになった」「菩提寺の住職から『お墓参りの前に本尊を先に拝みなさい』と言われたが、腑に落ちなかった」「宗派による解釈の違いから、親族の中でトラブルになったこともあった」「仏壇があればお墓詣りに行かなくてもいいかな思う」「お墓参りに行くのは信仰心からというよりも家族に会いに行くという感じ」「仏壇とは違って、そこに行けば故人に会えるというような感覚がお墓にはある」

9月12日(月)

新シリーズ

「仏教的断捨離」第1回



プチ法話「仏教的断捨離」 八王子市 浄土真宗 延立寺住職、松本智量

仏教では基本的に「断らない」。仏教では頂き物はすべて有り難く頂きます。それは執着にとらわれないとこに繋がります。「捨てる」の中には「捨身」わが身を捨てるという言葉があります。この言葉は一方で「生かす」という意味もあります。「喜捨」という言葉も前向きに喜んで捨てることです。私たちは生きている以上「執着」を捨てることも、断つことも出来ない、だから執着は「離れる」ものなのです。

「断捨離」というと自分の周りのものを整理していくことを良しとしています、一方で、こだわってみることも趣き深い考え方なのではないでしょうか。

## 坊コン談義「捨てられないもの・捨てちゃったもの・捨てられちゃったもの」

「思い出の詰まったものは中々は捨てられない」「仕事の資料が捨てられなかったが、退職したとたん捨てられることから実は仕事に執着があったのかと思った」「捨てているようで実は捨てていない。そこに執着があるのでは」「大災害などで捨てさせられることになってしまった人達の気持ちとはどんなものだろうか」

「捨てちゃったものは思い出し難い。物そのものへの執着は捨てた瞬間に忘れてしまっているのではないか」「断捨離は自分の死後に恥を残さないという意味もある。生への執着は死への恐怖でもあるのだろうか」  
・なんでも取っておく傾向があるのは男性に多いのではないか。女性の方がきっぱりと捨てられる人が多いかも」「捨てたいものは人間関係や煩わしい仕事」「自分のやりたいことのために“親の望み”を捨てた」

※坊コン談義：僧侶と一般によるグループトーク

坊コンの新テーマは「心の垢おとし 仏教的断捨離」

“執着無くせば楽になる！執着なければつまらない?!あなたは何を捨てますか?”というサブテーマのもと、来春まで継続予定です。

平成28年 12月19日(月) 18:30～20:30「仏教的断捨離②」臨濟宗 藤尾総允

平成29年 1月25日(水) 18:30～20:30「仏教的断捨離③」真言宗 名取芳彦

3月9日(木) 18:30～20:30「仏教的断捨離④」真言宗 増田俊康

※「こんな供養は〇〇だ！」シリーズの冊子を作成中。

仏壇・お墓・お葬式などの項目ごとにA5サイズ16頁にまとめます。請うご期待!

8月22日(月)

日蓮宗 永壽院住職

吉田尚英



「ビジュアル法話」

模型を使って話をすすめるビジュアル法話。十階建てのマンションとエレベーターの模型で仏教思想の「十界互具」や「六道輪廻」についての説明です。貪=むさぼり、瞋=怒り、痴=迷妄の三毒=煩惱を滅する薬が「南無妙法蓮華經」のお題目であり、その薬の効能書きがお経なのだという解説でした。

「お経デュエット」

直訳ではなく現代人の私たちにわかりやすく伝えることを優先した超訳のお経の朗読を、録音した読経を同時進行で重ね合わせる「お経デュエット」です。現代語を聞いていると、とても優しくあたたかな言葉の数々に気づきます。意味が明らかで理解してお唱えするのと、ただフリガナをたどって読むのとは全く違いがあると改めて気が付きます。心に仏様が寄り添ってくるように感じ、硬くなっていた心をホッとほぐします。

「塗り絵写経」

簡単な曼荼羅に色鉛筆で好きな色を塗り、お経の一節を筆面でなぞります。

塗り絵をしていると時間が過ぎるのも忘れて没頭し、心がほぐれていくことに気がつくことでしょう。

今回の写経は「妙穂蓮華經如来寿量品第十六」自我偈の一節です。

11月2日(水)

真言宗 興徳寺住職

青木隆興



「声明デュエット」

声明とは仏典に節をつけた仏教音楽です。本来は仏様に捧げる為にお唱えされるものですが、今回は実弟の竹井智隆師とともに聴聞側に向かってデュエットでお唱えします。部屋の明かりを最小限にして、ゆらゆらと蠟燭の明かりに照らされた中で声明が始まり、散華が撒かれ、儀式さながらの様子が再現されました。

「塗り絵写経」

塗香をした後、心が整ったところでぬり絵写経を開始します。今回は蓮の花の上に梵字の「阿」の字が書かれていました。この「阿」は真言宗の本尊である大日如来を表す梵字なのだそう。梵字を筆ペンでなぞり周りに好きな色をつけていきます。

「プチ阿字観瞑想」

梵字の第一字母が「阿」で、万物の不生不滅の原理を意味しています。真言宗では「阿」字と「月」を本尊として軸装にしたものを前にして瞑想を行います。これを「阿字観瞑想」といいます。塗り絵写経を机に置いて、「プチ阿字観瞑想」を試みました。姿勢を正して左手の上に右手を乗せて膝の上に手を置き、呼吸に意識を向けてゆっくりと深い呼吸を心掛けます。

瞑想により「世界と自分はひとつである」ことを実感していただきました。

寺ネットサンガの新企画「心のマッサージ ストレスほぐします！」

ちょっと気分を変えて、おうちに帰ろう！と坊コンより、もう少し楽しくカジュアルに仏教に触れることができるようにと企画されたのが「心のマッサージ」です。

会社帰りにも気軽に気分転換ができるように、そしてコチコチに固まっていた心がほんの少しでも柔らかく、まあるくなるように、ほんのひと時をお坊さんと一緒に過ごしてください。

次回は、2月15日(水) 19:00~20:00 浄土真宗 松本智量さんの登場です。

坊コン・心のマッサージの会場 「ウィズビジネスセンター」 東京都中央区日本橋3-3-3 山川ビル5階

TEL (03)5201-3883

fax (03)5201-3712

<http://www.wissquare-bc.com/access/index.html>



# サンガのお茶会 平成28年11月 第1回

11月14日(月)



## 事務局長のゆるゆる企画「サンガのお茶会」

こんなこと始めようと思う、と話したら「行きたい！」と手をあげてくれた方がいたので第1回を行いました。

今回は秋のお散歩とお茶という企画。(散歩場所が青山霊園というところが寺ネット・サンガらしい) 散歩のあとはカフェでゆっくりお茶を楽しみました。

システムはお坊さんおひとり以上と、ナビゲーターの寺ネット・サンガ事務局の樋口(女性)と参加者おひとり以上の3人以上がそろえば開催します。

ゆっくり話ができるのは6人くらいまでと感るので次回から上限は6名。

あとの3名は会員さんが優先ですが空きがあれば一般のかたもOKなのでホームページなどで募集します。

楽しかった、と書いていただけたら寺ネット・サンガの運営の寄付をちょっとでもいいのでお願いしたいと思います。

目的は何?と聞かれるとまずは、仏教に触れて欲しいということが寺ネット・サンガのすべての目的です。

「いいっね、仏教！」と書いていただければ嬉しいのですが。

看板イベントの「坊コン」もよいですが、小単位ならではのサンガのお茶会にも機会があればいらしてみてくださいね。

## 寺ネット・インフォメーション

### 寺ネット・サンガの会員証を発行します

サンガのオリジナルグッズが欲しいというご要望にもお応えして、「仏教ひとまわりツアー」で参拝した寺院のご朱印を配した御札にもなっている会員証を作成しました。(杉材75ミリ角)

会員僧侶により皆様の開運招福・大願成就の祈願をさせていただきました。



### 正会員は寺ネット・サンガのホームページで情報を発信することができます

正会員用アカウントでログインして、記事を書くことができます。掲載の作業が面倒な方は事務局あてに文字原稿と写真のデータを送信してください。ご自身の活動発表やイベントの告知等、仏教関係のみならずイキキと生活するための公共の利益になる情報・知識大歓迎です。

### 会員の講師派遣

「お寺仏教との縁結び」をすすめるために、ホームページにて会員の講師派遣の告知をすることになりました。講師としてお引き受けいただけるかたは、ホームページの『会員の方々』のプロフィールに得意分野や過去の講演の講題等の記載をお願いいたします。『寺ネット・サンガ会員から』の記事にご自身の法話や講義の内容を掲載していただければ、新たな発信場所としてにぎわう事にもなると思います。なお、講演の謝礼の一部をサンガ会計に寄付いただくと幸甚です。

### 会員同士のコラボレーション・イベントを募集

会員(正会員・賛助会員)同士の僧侶と業界専門家による講演会や寺院を会場にしたコンサートなどコラボイベントを開催したい方は事務局までご相談ください。その際には収益の一部をサンガにご寄付いただければ幸甚です。